

# 膵・胆道がんにおける 悪液質の病態と治療

司会

古瀬 純司 杏林大学医学部腫瘍内科学 教授

出席者

高山 浩一 京都府立医科大学大学院医学研究科内科学呼吸器内科分野 教授

岸和田昌之 三重大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科, 病院長特命補佐,  
災害対策推進・教育センター長, 准教授

光永 修一 国立がん研究センター東病院肝胆膵内科 医長

天野 晃滋 国立がん研究センター中央病院緩和医療科 医長

(発言順, 敬称略)

Round Table Discussion

## 座談会

がん悪液質は、栄養不良により衰弱した状態を示すべく古くから用いられてきた概念である。患者の活動性や生活の質 (quality of life: QOL) を低下させるだけでなく、根治を目指す治療においてその耐用性を著しく低下させ、予後を悪化させることなども問題視されている。これまで、がん悪液質に対する有効な治療手段は確立されてこなかったが、2021年にわが国で新規の経口グレリン様作用薬であるアナモレリンが承認され、がん悪液質の患者における体重および筋肉量の増加、ならびに食欲の亢進作用が期待されているところである。今回はがん診療において、悪液質治療に携わる専門家とともにがん悪液質の現状と新たな治療選択肢の位置づけ、今後の展望について討論いただいた。